



2011年3月11日、12日は
データなし



μSv/h : マイクロシーベルト/時

福島県原子力災害情報より作成

福島第一原子力発電所の原子炉からの放射性物質の大気中への放出は、主に爆発のあった2011（平成23）年3月12日から15日にかけて起こりました。大気中に放出された放射性物質は、風に乗って南西や北西の方角へと広まり、福島第一原子力発電所から60km離れた福島市でも高い空間線量率が計測されました。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

本情報は事故当日（2011年）～2014年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 1章 QA25 空間放射線量率は今も福島原発事故が起こる前の数値まで下がっていないのに、事故前と同じ生活をしていいのですか
- ・ 3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3章 QA17 モニタリングポストの測定値と、実際に線量計で測定した値が異なるのはなぜですか
- ・ 3章 QA18 空間線量率のグラフを見ると、突然、空間線量率が一時的に高くなることがあります。どうしてですか
- ・ 3章 QA19 天候に変化が無いのに、空間線量率が一時的に高くなるのはなぜですか
- ・ 3章 QA20 放射能事故等の測定データへの影響は、空間線量率の変化にどのように表れるのですか